

令和5年度（2023年度）

第73次印旛地区教育研究集会

外国語研究部 提案資料

「基礎・基本の定着を図り、場面に応じて考えながら表現していく力の育成」

～情報端末を使った指導の工夫～

印西市立木刈中学校

英語研究部

## 1 研究主題

A 基礎・基本の定着を図り、 B 場面に応じて考えながら表現していく力の育成

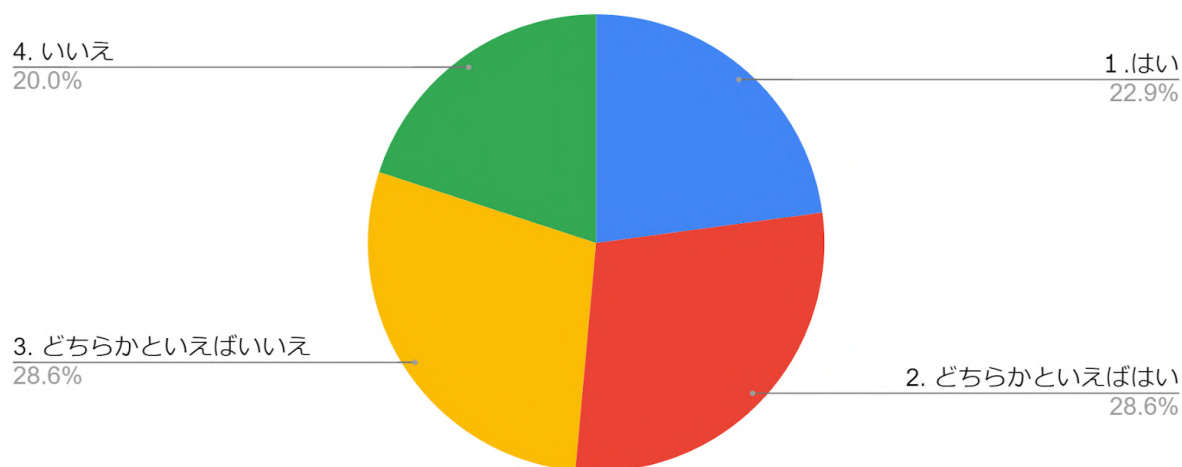
～情報端末を使った指導の工夫～

## 2 学校および生徒の実態

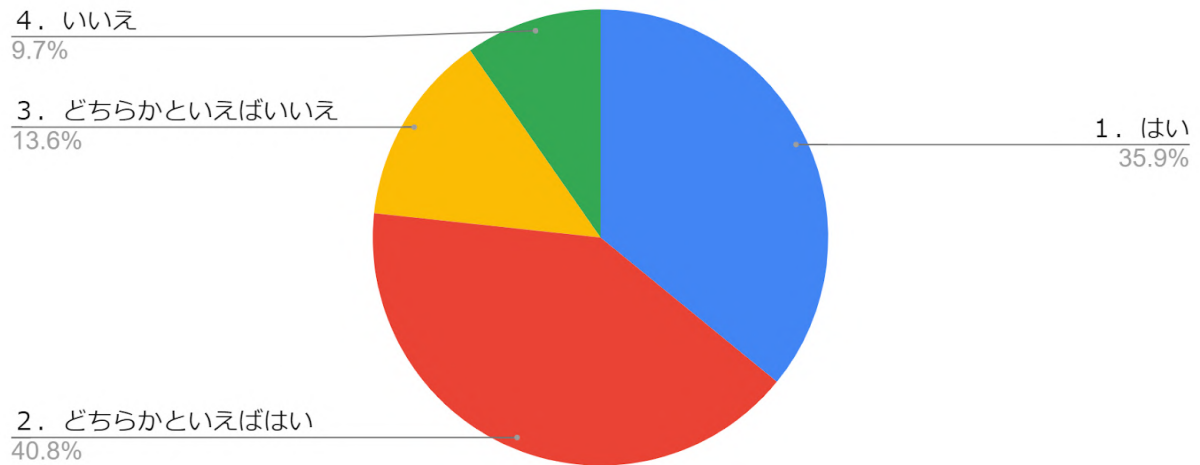
本校は千葉県印西市の西部に位置し、開校39年目を迎える。全校生徒818名（1学年8クラス、2学年7クラス、3学年7クラス）から成る大規模校である。本校が位置する学区は既存の住宅や新興住宅地、大型商業施設が多数建設されており、そのため生徒数は年々増加傾向にある。学区の人口増加が著しく、他県出身の生徒も多い。また、以前から本校では保護者の学校教育に高い興味や関心がみられる。また、比較的学力が高い生徒が多いとされ、学習に対する関心が高い傾向がみられる。本校にはALTが1名常駐しており、各クラスで週に1度の頻度でティームティーチングの授業が行われている。

情報端末を用いて英語学習をすることへの生徒の意欲を調査するべく以下のアンケートを行った。

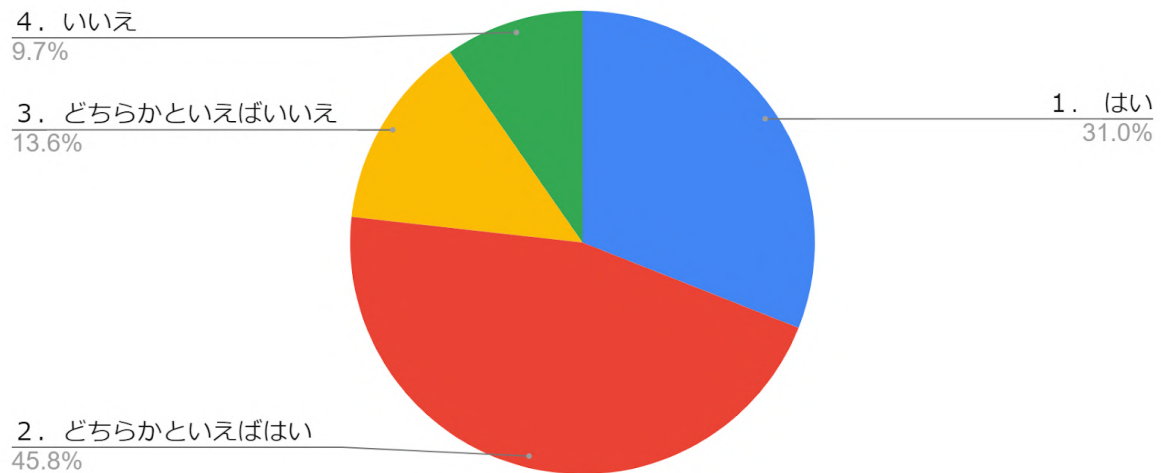
(1) 情報端末を用いて発表やプレゼンテーションをすることに興味はありますか？



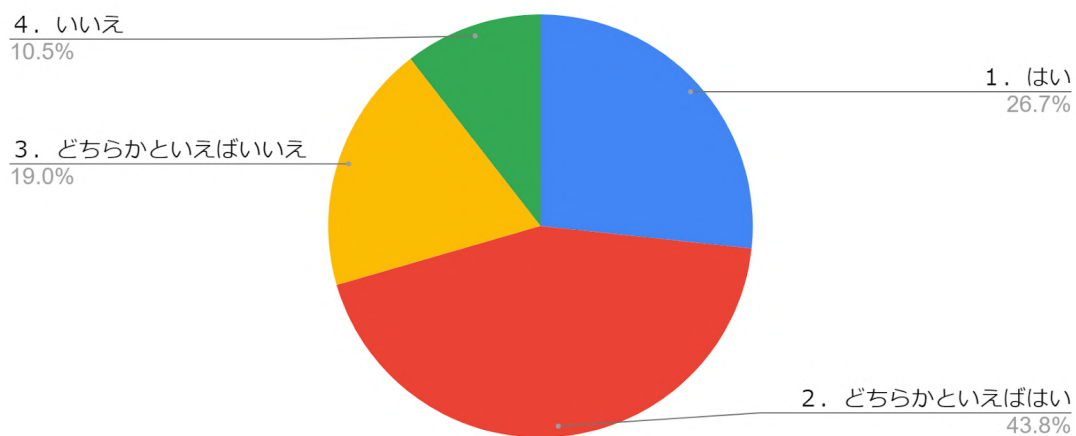
(2) 情報端末を用いて文法演習などの個人学習をすることに興味はありますか？



(3) 情報端末を用いて問題演習などの個人学習をすることで自分の得意分野や苦手分野を把握しやすくなりましたか？



(4) 情報端末を使うことで、あなたの英語学習に対する意欲が向上しましたか？



(5) (4)の質問に対して、それはなぜですか？

○「はい」「どちらかといえばはい」を選択した理由

- ・情報端末だと筆記用具の準備が必要なかったり、鉛筆を動かしたりする手間が省けるため勉強がはかどりやすいと思うから。
- ・情報端末によって問題などで間違えたところをすぐに見直すことができると思うから。
- ・自動で丸つけをしてくれるのでサクサクできるため。また、ものによっては音声流れるのでスペルと一緒に発音も覚えられるため。
- ・自分の苦手なものや得意なものをデータ化してわかりやすくすることで、モチベーションが上がるから。
- ・他の生徒との意見交換が容易にでき、アナログの場合と違って参考画像などを使用できるので自らの考えを具体的に表現しやすい。
- ・パソコンで問題を解いたほうが解答や丸付けがスムーズに進んで問題を解けた。
- ・問題集が山ほど積んであるより、PC1つでいろんなことを学べたり、同時に検索もできたりしてやりやすい。資料として画像、映像を使って学べるから。
- ・情報端末を使うことで自分から取り組もうとする気持ちが生まれると思うから。
- ・何回でも挑戦できるので苦手な所を重点的に取り組み、苦手を少なくできれば意欲が上がると思ったから。
- ・情報端末によって問題の演習や復習がしやすくなったと個人的に感じたから。
- ・情報端末を使う方が効率よく教科書だけよりも楽しく学べると思うから。
- ・情報端末を使えば知らない単語の発音がわかり話せるようになると楽しいから。

○「いいえ」「どちらかといえばいいえ」を選択した理由

- ・パソコンを取り出す時間があったくないのとパソコンだと覚えにくいから。
- ・プリントの方がやりやすいから。
- ・紙に書いてもパソコンでやっても別に変わるとは思わないから。
- ・タブレット端末を使うことで、ある程度の技術向上はあると思うけど、意欲で見ると他の学習と同じような気がするから。
- ・タブレットを使っても作業みたいな感じで身につかないと思うから。

- ・タブレット端末を使うと他のことをしたくなってしまうと思うから。
- ・ペンで書くほうが楽しいから。
- ・タイピングとパソコンが苦手だから。
- ・タブレット端末では、自分のスペルの書き方の癖がわからずに出来ているつもりになってしまうから。
- ・機械の力に頼っていると知識が瞬間的なものになってしまい、長期記憶やアウトプットに繋がらない気がするから。

アンケートの結果から、授業の中で情報端末を用いて活動や演習をすることに興味をもっている生徒が多いことがわかった。発表やプレゼンテーションをすることに興味をもっている生徒は51.5%であり、76.7%の生徒は情報端末を用いて文法演習などの個人学習をすることに興味をもっている。また、76.7%の生徒が情報端末を用いることで自分の得意分野や苦手分野を把握しやすくなったと回答していることから、多くの生徒が個人学習で情報端末の使用を肯定的に捉えており、特に文法演習などの個人学習で高い効果を発揮していることが分かった。さらに、情報端末を使うことで英語学習に対する意欲が向上したと回答している生徒が70.5%であることから、今後も情報端末を用いた指導を工夫していくことにより、生徒の学習への意欲を高め、さらに英語力の向上を期待できる。

### 3 主題設定の理由

現代は情報化社会であり、グローバル社会と言われて久しい。コロナ渦の学校社会においても「リモート授業」という新しいコミュニケーションの取り方も誕生している。未来を生きる生徒達は、端末を用いてコミュニケーションやプレゼンテーションをする時代に対応できることが求められている。そのような社会情勢の中で今まで以上に「即興性」の要素を含むテンポのあるコミュニケーションが重視されるようになった。その一方で、学習者は文法の「正確性」を身につけなければならない、授業の中で両極端の性質にあるものを授業者がどのようにバランスよく扱うかの判断が求められるようになった。

即興性が身につくまでのプロセスでは、学習者は幼な子が言語を習得するように、何度も繰り返し間違えながら正しい表現を身につけることが求められる。しかし、現状では学習者の学

び方は「受け身」になりがちであり、発信する以前に正確に話すことに捕らわれてしまい、伝えることを躊躇してしまうことが多い。その現状を少しでも改善し、スモール・ステップで指導しながら生徒の「即興性」を育むことはできないだろうかと考え、本主題を設定した。

生徒が発信することに躊躇してしまう理由は2つある。第1の理由は英文法の間違いへの不安が挙げられる。そのために主題設定Aの「基礎・基本の定着」を図ることが最も先決であると考えた。基礎・基本の定着のために必要なことは、自分の文法の弱点を正しく知ることである。主題Aの段階では正確性を追求してこそ、基礎・基本が定着できると考え、評価する時も正確性に重点を置いた。情報端末を使って各文法項目の小テストを実施し、学習者が苦手とする文法のつまづきはどこなのか把握させ、情報端末を教科書の補足的な教具として使い、生徒の「わかった」「できた」という達成感を増やしていくことが重要であると考えた。

生徒が躊躇してしまう第2の理由は、その学習活動をなぜやるのか、どのようなプロセスで進めるべきなのか明確でないことが挙げられる。例えば、道案内の題材を教える場合に、「困っている人に道を教えましょう」という漠然とした設定よりも、「あなたは今浅草にきています。路線図のガイドマップを持っている外国人に上野駅への行き方を聞かれました。どのように説明しますか。」と場面を具体化した方がリアリティーがあり、どうすれば学習課題を達成できるかがより明確になる。また生徒の実態を考えた場合には、浅草よりも生徒になじみのあるディズニーランドの行き方や、中学3年生であれば高校への行き方を説明する方が、生徒のニーズにあった課題に調整することができる。

授業における場面設定の重要性を踏まえて、主題設定Bの「場面に応じて考えながら表現していく力」の育成を研究主題の後半部分に設定した。このBの段階においては正確性よりも即興性に重点を置いて生徒が活動できることを条件とした。場面に応じて考えながら表現するためには、「即興性」が求められる。この「即興性」を育むための必要条件は「生徒が主体的に学ぶ姿勢」が不可欠である。「主体的に学ぶ姿勢」の背景には「相手に英語を使って伝えたい」という動機が必要である。生徒が日本語ではなく英語で伝えたいと思うようにするためには「場面設定」を生徒の実態に合わせて工夫しなければならない。場面設定が学習者にイメージしやすければしやすいほど、相手に伝える必然性をもたせることができる。「場面設定」がうまく機能すれば生徒の表現力の幅が広がり、伝えたいという動機も強まるのではないかと考えた。

以上のことから、Aの「基礎・基本の定着（正確性）」を土台として、Bの「場面に応じて考え

ながら表現していく力（即興性）」の育成へとつながるような段階的な指導とは何かを追求するために本研究主題を設定した。

#### 4 研究仮説

仮説1 情報端末を用いて、個に応じた文法学習を行うと同時に、協働学習を取り入れることで、表現することの楽しさが実感できるだろう。

仮説2 相手をより意識できるような場面・状況の設定を行うことで、工夫して表現しようとする力が育まれるだろう。

#### 5 研究の内容と実践

本校では各学年の学習到達目標をCAN-DOリストの形で設定している。2年時での「話すこと（やり取り）」と3年時での「話すこと（やり取り）」の達成に難しさを感じる。特に、分からない表現を別の表現に言い換えたり、物語についてその感想や自分の考えを伝えたりすることなどの力の達成が困難である。本校では、これらの力の育成を達成するために、生徒たちの会話での表現力の育成を基板として、そこから即興で様々な表現をすることができる力の育成を目指していく。そのための指導や実践を次に示していく。

##### (1) 仮説1より

ア. 英文法診断シート

学年・単元 3学年

実施時期 1学期に2回（6月初旬・7月中旬）、2学期に2回（実施予定）

目的 3年間の英文法の問題を幅広く解くことで、自分が苦手とする英文法はどこかに気づくことができる。

使用したツール Googleスプレッドシート

①スプレッドシートの英文法○×問題に30問取り組む。（図1を参照）（7分）

②生徒は「判定」の欄をクリックし、各自で答え合わせをする。（2分）

③自分が間違っていた問題について「英文法診断シート」に記入する。（1分）

ノートの裏表紙に貼っておき、いつでもポートフォリオが見られるようにしておく。

(図2を参照)

④間違えた文法問題を選び、eライブラリの問題に挑戦するように指示する。(10分)

(図1)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
1	☆次の( )に入る最も適切な語を1つ選択して①～③の番号を入力してください。							※解答欄には全角数字を入れてください。			
2				①	②	③	解答	判定			
3	例	I ( ) a pen.	① am	② have	③ play	②	○				
4	1	I ( ) basketball.	① am	② is	③ play						
5	2	You ( ) angry.	① is	② are	③ am						
6	3	Hiroka ( ) to school by bike.	① go	② goes	③ going						
7	4	( ) do you have?---A pencilcase.	① What	② Who	③ Whose						
8	5	I have ( ) textbooks in my bag.	① a	② an	③ some						
9	6	This is ( ) shoes.	① I	② my	③ me						
10	7	I have some ( ) in my pencase.	① pen	② pens	③ my pens						
11	8	( ) the door,please.	① Open	② Opening	③ Be open						
12	9	Do you live ( ) Oguradai?	① on	② in	③ at						
13	10	I am ( ) a novel.	① read	② reads	③ reading						
14	11	My sister ( ) WBC last night.	① watches	② watched	③ watching						
15	12	It ( ) rainy yesterday.	① was	② am	③ is						
16	13	I ( ) sleeping at 10 last night.	① am	② is	③ was						
17	14	My mother ( ) go to Kyoto tomorrow.	① is	② like	③ will						
18	15	There ( ) an apple on the table.	① am	② is	③ are						
19	16	( ) I eat this dinner?--Sure. You can eat!	① will	② May	③ When						
20	17	I like English ( ) science.	① and	② but	③ or						



(図2)

## 英文法診断表にチェックを入れよう

文法	第1回	第2回	第3回	第4回
記入例	○	○	×	○
①一般動詞				
②Be動詞				
③3人称単数現在形				
④疑問詞				
⑤冠詞				
⑥代名詞				
⑦単数・複数				
⑧命令文				
⑨前置詞				
⑩現在進行形				
⑪過去形				
⑫be動詞の過去形				
⑬過去進行形				
⑭未来形				
⑮There is /are				
⑯助動詞				
⑰接続詞				
⑱不定詞				
⑲動名詞				
⑳比較				
㉑better /the best				
㉒受動態				
㉓現在完了(継続)				
㉔現在完了(完了)				
㉕現在完了(経験)				
㉖関係代名詞				
㉗構文				
㉘分詞の後置修飾				
㉙間接疑問文				
㉚仮定法				

★自分の弱点分析に役立ててください。★

### 成果と課題

- ・英語が苦手な生徒にとっては、英文法診断は好評であった。テスト形式だと学習者は萎縮してしまうが、情報端末で瞬時に答えがわかる方法であるため気軽な気持ちで受けることができた。
- ・英語が得意な生徒にとっては、全問正解という生徒も多くいて、この英文法診断シートが物足りないと感じる生徒もいたようだ。それらの生徒には、次の学習の方向性を示せるような何かがあるとよいと感じた。

## イ. 教科書Activities Plus の活用

学年 3 学年（全学年で実施可能）

実施時期 3 年 1 学期（教科書の進度に合わせて随時実施可能）

目的 Speaking練習 話すこと（やりとり）

既習の英文を用いて自分の事について英語でやりとりを行なう。

### ○Topics for Speaking （実施時間 10～20 分程度）

話題（Topics）の中から1つを選び、その話題で友達と対話を行なう。

\* 会話が続くように、積極的に相づちをうったり、2 文以上で答えたり、質問をしたりする。

#### 指導の手順

1. 情報端末（タブレット）のロイロノートに自分の考えや答えを書いて提出させる。  
（時間は 5 分～10 分）
2. 提出できた生徒は、見なくても言えるように、自分の書いた答えの文を覚える。
3. 隣の生徒とペアになりじゃんけんをする。勝った者が先に質問をし、負けた者が答える。次に質問する側と答える側の役割を交代する。
4. 縦 2 列の時計回り（または反時計回り）でペアを変える。5～6 人のパートナーと対話練習を行なう。

### ○Questions & Answers （実施時間 10 分～15 分程度）

#### 指導の手順

- 1 回に扱うのは 5～8 つくらいの質問とその応答で実施することが多い。
1. Questions & Answers 質問と応答例を ALT（JET）と発音練習する。  
\* 教科書に答えとなる応答例が載っているが、場合によっては、教科書に載っていない否定の内容の応答例を紹介したり、別の応答例を口頭で示したりする。
  2. 生徒を立たせ隣の人とじゃんけんをする。勝った者が質問をし、負けた者が答える。  
最終的には生徒一人ひとりが自分なりの答えを即興で考えて答える。  
1 つのペアで、時間は 1 分～40 秒と設定し、徐々に時間を短くしている。  
\* 教科書の例文をできるだけ見ないように。対話なのでアイ・コンタクトを意識するように指

示を出す。

\*早く終わったペアはじゃんけんに負けた者からの質問をする。

3. 縦2列の時計回り（または反時計回り）でペアを変える。5～6人のパートナーと対話練習を行なう。

\*同じ内容の質問なので答えやすい。パートナーによって答えの内容が異なるので興味が持続する。何回もくり返すので、だんだんとスムーズに言えるようになっていく。じゃんけんによって質問する側と答える側の両方の練習ができる。時間制限があるのでスムーズに話そうと頑張ることができる。

### 成果と課題

- ・全学年で実施可能。既習事項を踏まえたやりとりの練習ができる。
- ・相手によって答えの内容が異なるので、やっていて楽しいという生徒の声があった。
- ・学年が上がるにつれて使える英文のバリエーションが広がってくるので、実践的なやりとりの練習ができる。
- ・相手を変えて繰り返しやりとりの練習ができるので、徐々になめらかに英語を話すことができるようになっていく。
- ・英文の正確さなどで、問題がある生徒もいるが、とにかく相手に伝えようとする姿勢を育むことができる。
- ・情報端末を用いることにより、いきなり対話を始める前に準備をすることができる。
- ・苦手な生徒への支援や個別のアドバイスが必要である。

### ウ. グループリーディング

#### ○教科書の穴埋め音読

学年・単元 3年生 単元 Lesson1-3

実施時期 1学期

目的 シーフードチャウダーの作り方を英語で説明しよう。

ア ( )に入る語を教科書を見ないで読めるようにし、内容理解の一助とする。

イ 仲間と助け合って音読する力をつける。

ウ 読む速さの追求（ペアで協力して目標50秒以内で読み終える）

使用したツール ロイロノート

指導の手順

1. YouTubeでシーフードチャウダーの作り方のビデオを5分間見せる。
2. New wordsをロイロノートで確認する。教師の後にリピートして発音を確認する。

その後右の目隠し用のピンクの長方形を左側に指で動かして単語を隠す。（図1を参照）

（図1）

Lesson1-3		
1. Stewart	名詞	スチュアート（姓）
2. tried	動詞	tryの過去分詞形
3. seafood	名詞	シーフード
4. chowder	名詞	チャウダー
5. Prince Edward Island (名詞)		プリンスエドワード島
6. lobster	名詞	ロブスター
7. clam	名詞	ハマグリ, アサリ
8. already	副詞	もう, すでに
9. cut up ~		~を切り刻む
10. boil	動詞	~をゆでる
11. tender	形容詞	やわらかい
12. add	動詞	~を加える
13. scallop	名詞	ホタテ貝
14. simmer	動詞	ぐつぐつ煮える, 煮る
15. pass	動詞	(時間が) 経つ
16. cream	名詞	クリーム
17. tablespoon	名詞	テーブルスプーン, 大さじ
18. butter	名詞	バター
19. parsley	名詞	パセリ
20. serve	動詞	(食事・飲み物) を出す
21. ever	副詞	これまでに
22. smell	動詞	~の匂いをかく

3. ペアになり40秒間、日本語から英語に変換して言えるように問題を出し合う。
4. 教師のModel reading・・・教科書を全体で2回速さを変えて読む。
5. 生徒同士での読む活動・・・ジャンケンをして負けた生徒はシート1、勝った生徒はシート2を読む。（1分間×5セットを行う）


①2回目までは教科書と情報端末を交互に見ながら読む。

②3回目からはロイロノートだけを見て穴埋め音読する。


（ペアはパートナーを変えながら練習する。）

③Challenge Time・・・全員教科書を閉じて1人ずつ指名し、穴埋め音読に挑戦する。


① 野菜を切る  
( ) ( ) some ( ). ( ) them ( ) they are ( ).



② それらを水の入った鍋に入れる




③ やわらかくなるまで煮る  
( ) them ( ) they are ( ).




④ コブスター、アサリ、魚、ホタテを追加します  
( ) them ( ) the ( ) of ( ). Add ( ), ( ) ( ) and ( ).

⑤ Let them simmer for five minutes.

⑥ クリームをカップ2杯、牛乳カップ1杯、バター大さじ4杯加えます。  
Add two ( ) of ( ), one ( ) of ( ), and four ( ) of butter.



⑦ 塩、こしょうを加える  
Add some ( ) and ( ).



⑧ Simmer it for another 20 minutes.

⑨ 食卓に出す直前にパセリを加える  
( ) ( ) just ( ) we ( ) it.

## 成果と課題

- ・コーラスリーディングからペアリーディング、最後にクラスの代表が読むという段階的な活動をするにより、生徒は活動への見通しをもち参加することができた。
- ・料理という文章だけでイメージすることが難しい題材は、写真を提示することによりスムーズに理解することができた。
- ・ペアで活動することで、生徒同士がわからない単語を教え合ったりすることができた。
- ・勝った人と負けた人で見るとシートの内容が異なるのでインフォメーションギャップが生じて協働学習が成立する。
- ・指導者は教科書で覚えてほしい単語や注目してほしい文法などを穴埋めでコントロールすることができた。生徒がどこで間違いやすいのかに気づくことができ、机間巡視の際に、ピンポイントで生徒に助言できた。

## ○教科書の穴埋め音読進化形

学年・単元 2 学年 単元 Lesson6-1 (比較級・最上級)

実施時期 2 学期

目的 比較級・最上級の英文に重点を置きながら本文を読める。

使用したツール ロイロノート

### 指導の手順

1. デジタル教科書で文字抜きの音声と挿絵だけの資料を流す。
2. New wordsの確認・練習→ロイロノートを用いて練習する。
3. 始めの2回は、教科書を見ながら一斉音読で練習する。

4. 3回目からは、ペアで練習をする。教科書は見ないで情報端末だけで読む活動をする。ジャンケンで勝った方が短い文のKentaを、負けた方が長い文のEmilyを担当する。その際に35秒以内に読むことを目標として知らせる。

下線部の比較級、最上級の表現に気をつけて言ってみよう。

Kenta: (さあ着いたよ) (あれが大仏です。)

Emily: It's ( ) ( )! (それは高さはどれくらいですか?)

Kenta: ( 本当に ええと 巨大な ). The guide book ( 書いてある ) it's 13.35 meters tall.  
(それは私たちの学校より高いです。) Our school is a three-story building.

Emily: Is this (1番高い大仏ですか/日本で) ?

Kenta: No, some others are ( ) taller than this one.  
ずっと⇒比較級を強める表現

Emily: (なるほど。) I love Kamakura. (それは/~の中の一つ/最も古いまち/日本で),  
 so there are many interesting temples and shrines.

#### 成果と課題

- ・生徒はアンダーラインを引いてある行が最も重要な文だと理解しながら、読む活動に取り組むことができた。( )の中身に和訳を英語の語順にして提示しておくことで、生徒は無理なく英語に直すことができた。
- ・本文の文法の解説も予めロイロノートに提示しておくことで説明の時間が省ける。
- ・丸暗記の活動になっているので、本当に比較級の文そのものが習得できたのかが評価しづらい。

#### ○教科書の穴埋め音読&発表

学年・単元 2学年 単元 Review Lesson Part 2

実施時期 2年1学期

目的 旅行ガイドになったつもりで写真について友達に説明しよう。

使用したツール ロイロノート

## 指導の手順

1. New words の確認をする。
2. 本文のペア音読練習をMs.KingとGuideに分かれて練習する。  
読むのに慣れてきたらピンクの四角を動かし、本文の所々を隠して読む活動にする。
3. ジャンケンで勝った人がシート1、負けた人にシート2を用意し、本文を見ないで説明できるように練習する。
4. 4人グループになり、ミニ発表会を行った。その際に、写真がクラスの生徒に見えるように情報端末を相手側に提示しながら発表を行った。

Review Lesson Part 2 Ms.King's Trip with Her Friend

Words & Phrases

famous	形容詞	有名な	
be famous for	～で有名である		
guide	名詞	案内人、ガイド	
postbox	名詞	郵便ポスト	
put ~ in		～を中に入れる	
must	助動詞	きっと～に違いない	
stone	名詞	石	
tablet	名詞	碑	
impressive	形容詞	みごとな	

Ms.King : Matsuyama is famous for haiku, right?

Guide: Yes, it is .Look , that is a haiku postbox. In this town, you have to write a haiku and put it in every day.

Ms.King : Oh, really?

Guide: Just kiddig. But I write haiku every day.

Ms.King : Wow, you must really love haiku!

Guide: Many people here love haiku. Look. That's a stone haiku tablet. We can see those tablets everywhere.


Ms.King : How many tablets are there in this town?

Guide: There are about 600.

Ms.King: That's impressive!

### シート1 勝った人用

ガイドになったつもりで俳句ポストについて説明してください。




- ① 見てください。
- ② あれは俳句ポストです。
- ③ この町では、あなたは俳句を1句書いて毎日ポストに入れなければなりません。

### シート2 負けた人用

ガイドになったつもりで説明してください。

- ① ここにいる多くの人は俳句が大好きです。
- ② 見てください。あれは俳句の句碑です。
- ③ 私達はあれらの句碑をいたる所でみることができます。



## ○教科書のTFクイズ

学年・単元 2年 単元 Lesson 6 - 2

実施時期 2学期

目的 本文の内容がどれくらい理解できているか確認する。

使用したツール ロイロノート

指導の手順 音読練習後に教科書を見ながら実施する。(4分)

評価 3問中2問は全員正解を目指す。

## Lesson6-2

次の英文の内容が正しければTrueを、間違っていればFalseを選択しなさい。

出席番号を半角英数のみで記入してください。女子は21番～40番で入力をお願いします。\*

記述式テキスト (短文回答)

あなたの氏名を入力してください。

記述式テキスト (短文回答)

①Aya thinks history fans like Japanese castles.



True

False



②Bob prefers eating to sightseeing.



True

False

③Aya wants to see Himeji Castle.



True

False

### 成果と課題

- ・ 1, 2 問目よりも 3 問目が細部についての質問であり難しいことから、手がかりとなる言葉を提示した方がよい場合もある。
- ・ 問題に関係する部分に関連する絵を入れることで、生徒は質問内容について理解しやすくなった。
- ・ 生徒は自分で答え合わせができる。不正解の場合の解説をあらかじめ書き入れておくことができるので、解説を教師がする必要がない。
- ・ 各クラスごとの集計は難しいが、全体の達成度が質問ごとにわかるので、指導者はどの部分が理解できていないかの傾向をつかみ指導することができた。

(教師側で管理できる評価画面)



○教科書グループ音読

学年・単元 3学年 単元 Lesson 2-3

実施時期 1学期

目的 4人で協力して速さを意識しながら本文を読む。

使用したツール ロイロノート

## 指導の手順

1. 1人ずつ色を決めて黒→赤→青→緑の順に読むように指示をする。
2. 4色すべての色を1回ずつ担当しながら合計4回読む。
3. 5回目からは発展型グループ音読として1文単位ではなく、チャンクごとに色分けしたものでグループ音読をする。
4. 色別になっているチャンクごとに和訳を担当しながらグループで和訳リレーをする。

(4分)

### **Wildlife Should Be Returned to the Wild**

The veterinarian Saito Keisuke works for the Kushiro Wetland Wildlife Center. He noticed that many eagles died from eating deer meat. The meat was poisoned by lead bullets. He started a movement against them. As a result, in 2004 the use of lead bullets was banned in Hokkaido. The situation has been improving since then.

Eagles face other dangers. Many are killed by trains and windmills. Others die from electric shocks when they try to rest on top of utility poles. The Center has been developing tools to protect birds from the electricity. Some of these tools are already used on utility poles.

Dr. Saito also has been working hard to cure birds from their injuries and help them return home. He believes that wildlife should be returned to the wild.

## 成果と課題

- ・紙媒体と異なり、4色に分けて提示できるので本文のグループ音読が簡単に指示しやすい。
- ・音読練習は単調になりやすいが、グループで読むことで積極的に参加しやすくなった。
- ・代名詞が指すものは何かや、新しい文法の解説といった細かい文法指導をとる時間が減ってしまった。

## ○教科書本文のリスニング活動

学年・単元      2学年      単元    Reading    Stone Soup

実施時期      3学期

目的              リスニング活動      内容を聞いてStone Soup の調理の手順を理解する。

使用したツール ロイロノート

### 指導の手順

1. デジタル教科書で本文を3回聞かせる。
2. 生徒に問題シート（A）を配布する。①と②を例として③～⑨までの調理手順の番号シートを動かして絵の中に入れるように指示する。
3. 解答速報シート（B）を配布し、答えを確認する。

（A）問題シート



（B）解答速報シート



### 成果と課題

- ・ 解答速報シートで時間をかけずに答え合わせをすることができた。
- ・ 絵に興味を持ち、苦手な生徒も意欲的に取り組むことができた。

エ. Listening 効果的な聞かせ方（ESL cyber listening lab）

学年・単元 1 学年

実施学期 1 学期

目的 段階を経て、ネイティブのスピーチに慣れ、理解することができる。

使用したツール ESL cyber listening lab

## 指導の手順

1. まず最初にどのようなトピックについて話しているのかを把握するために、聞こえた英単語を日本語で紙に書かせる。

# Joshua



## in Japanese school



2. 出てきた英単語を整理しつつ、登場人物やどのような場面かを共有し、共通理解を行う。行ったやりとりを一部抜粋したものが以下の通りです。

教員 Who is he?

生徒 He is Joshua.

教員 How old is he? Please guess.

生徒 He is eight or nine.

教員 Where is he from?

生徒 America? Canada?

3. 複数設定されている問題の中で、既習の範囲で答えられる問題を選び、質問（1つ目の質問、2つ目の質問）の内容を理解した後、範囲を限定して流し、リスニングに取り組む。その後、解答を確認する。
4. 最終問題として、同学年で学ぶ未習の問題を選択し、質問内容を共通理解した後、解答にあたる範囲を流し全体で答え合わせを行う。

(1つ目の質問)

Where does Joshua eat lunch at school?

in his classroom

in the gymnasium

in the lunchroom

(2つ目の質問)

Joshua probably gets home from school between \_\_\_\_.

2:00 and 3:00 p.m.

3:00 and 4:00 p.m.

1:00 and 2:00 p.m.

(3つ目の質問)

How does Joshua go to school in Japan?

He rides the subway at 8:00 AM.

He takes a school bus every morning.

He walks with a group of friends.

### 成果と課題

- ・複数回同じスピーチを聞くことで、徐々にネイティブの英語に慣れることができた。
- ・事前に質問の意図や、範囲を限定することで生徒が情報を明確に整理することができた。
- ・生徒がそれぞれ答え合わせができ、その場での達成度は把握できるが、生徒独自に行なった場合把握できない。



The screenshot shows the website interface for Randall's ESL Cyber Listening Lab. The header includes social media links and navigation menus for DailyESL.com, Trainyouraccent.com, and EZslang.com. The main content area features a large image of a woman wearing headphones, with the text 'General Listening Quiz' and 'A DAY AT SCHOOL' overlaid. To the right, there is a search bar and a list of four items: '1. Test Your English Level', '2. Learn To Speak English Online', '3. Spoken English Lessons', and '4. Improve English Speaking', each with a right-pointing arrow.

Randall's ESL Cyber Listening Lab. 「English Listening」.

<https://www.esl-lab.com/easy/school-schedule/>, (参照 2023-08-01)

(2) 仮説2より

ア. 個人スピーチ (情報端末を使ったプレゼンテーション)

学年・単元 1 学年 単元 Lesson3 (三人称単数現在形)

～あなたの推しについて紹介しよう～

指導時期 1 学期末 7 月

目的 あなたの推し (好きな人物) の魅力を友達にアピールしよう。

写真やイラストのみを用いて自分の伝えたいことを相手に伝えることができる。

使用したツール ロイロノート

指導の手順

1. お手本となるプレゼンテーションを生徒に聞かせ、その中で聞き取ったことをメモさせる。
2. ロイロノートを用いて生徒は以下のテキストで紹介したい推しについて入力し提出する。

1. あなたの推しは
2. その人はどんな人か
3. 紹介したいこと (2つ)
- ・
- ・

3. プレゼンテーションの原稿となる、下書きをロイロノート上で作成する。

(この下書きは、発表の準備用であり、発表の際原稿を読むことはしない。)

4. プレゼンテーションで使う写真やイラストをロイロノートに提出する。
5. 教師は、送られてきたイラストをスクリーンに写し、生徒はそれを示しながらプレゼンテーションを行う。

(下書き記入例)

1. あなたの推しは  
ミニオンズ (ボブ)
2. その人はどんな人か  
映画のキャラクター  
フレンドリー・かわいい!
3. 紹介したいこと (2つ)
  - ・バナナが好き!  
いつも食べている。
  - ・ボブはいつもティムを持ち歩く。  
特に好きな映画は「ミニオンズフィーバー」

(シート1)

Hello.  
I will tell you about Bob of  
"Minions".  
He is very cute and funny.  
He is a main character of  
"Minions" and "Minions fever".

(シート2)

Look at this picture.  
He always carries his Tim.  
It's a teddy bear. He loves Tim.  
Look at this picture.  
He is Keven. He is cool.  
He is Stuart.  
He likes bananas very much.  
They are Bob's friends.

(シート3)

My parents gave me Minions  
goods for Christmas and my  
birthday.  
I want to eat bananas with  
"Minions".  
Thank you.

### 評価について

1. ジェスチャーやアイコンタクトを用いて、相手に伝えることができる。
2. 適切な声量で話すことができる。
3. イラストや写真だけを使って、その人物について説明することができる。

### 成果と課題

- ・ロイロノート上で生徒の進行具合を一括で確認することができた。
- ・段階を踏んで準備を進めることで、生徒は見通しを持って準備をすることができた。
- ・プレゼンテーションのテーマが生徒にとって関心が高いものだったため意欲的に取り組む生徒が多くいた。
- ・原稿を見ずにイラストや写真のみを見てプレゼンテーションを行う訓練ができた。
- ・原稿を見ずにプレゼンテーションを行ったため、発表までの準備に時間がかかった。
- ・写真を選ぶ時間やテーマとなる人物を決めることに時間をとられる生徒が多くいた。

### イ. ALTとの対話練習

学年・単元 3学年 単元 Useful Expressions (観光案内所)

実施時期 1学期

目的 目的地への電車での行き方を聞かれたときに、路線図を見せながら即興で伝えることができる。

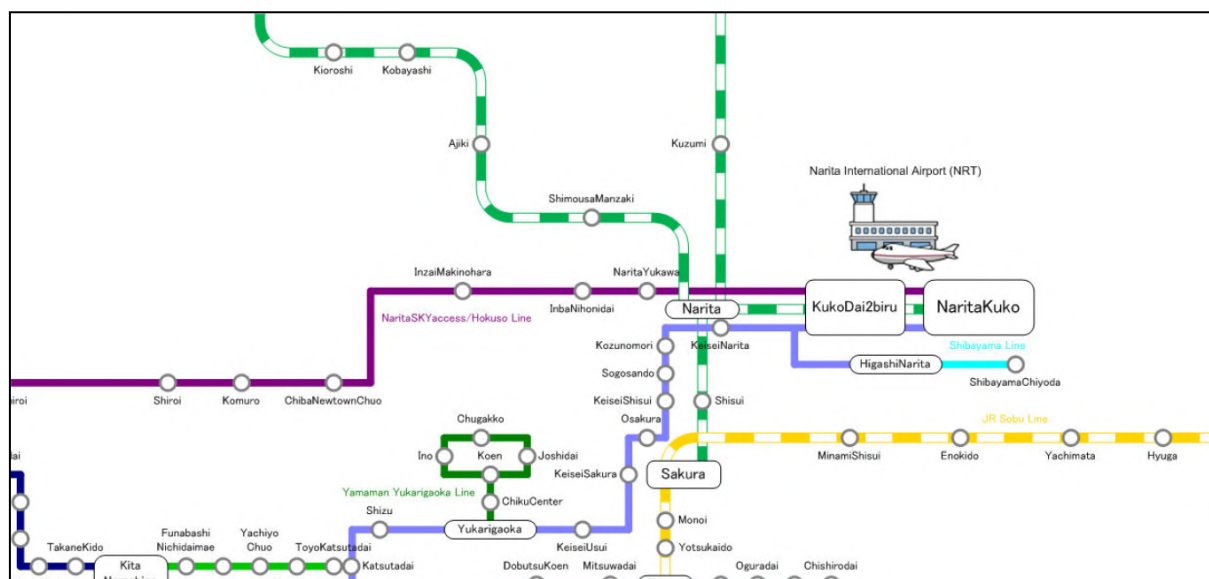
使用したツール Chiba Train Route Map



## 指導の手順

1. 教科書を使い、乗り換え案内に必要な表現の使い方を知り、練習する。
2. 教科書の表現を十分に言えるようになったら、路線図を印西市周辺のものへと変更する。
3. 周辺の商業施設や高校への行き方について確認し、クラス全体やペアで練習する。
4. ALTは生徒1人1人と対話しランダムに目的地をたずねる。
5. 生徒はたずねられた目的地に対して即興で行き方をALTに伝える。

目的地の例（高島屋、東武百貨店、成田山新勝寺、小金高校、我孫子高校、成田高校など）



Ryoko.info. 「Chiba Train Route Map」.

<https://www.ryoko.info/01en/rosen/train/chiba.html?authuser=0>, (参照 2023-08-01)

## 成果と課題

- ・ 路線図をワークシートに印刷すると範囲が限定されてしまうが、情報端末を用いるとカラーで範囲も限定されないため活動しやすかった。また、実在する場所を目的地として練習することで、教科書の表現を実践的に活用できることを実感し、より主体的に活動に取り組むようになった。
- ・ 3年生の授業で行ったため進路指導の一環として目的地に高校を加えた。いくつかの高校への行き方を確認できたり、これまで知らなかった高校の存在について知るきっかけになった。

- ・ A L Tとの対話の中で、即興で乗り換え案内を伝えることができたという経験が生徒の自信となった。

ウ. 英作文① 情報端末を用いて夏休みにしたいことを未来形で書かせる

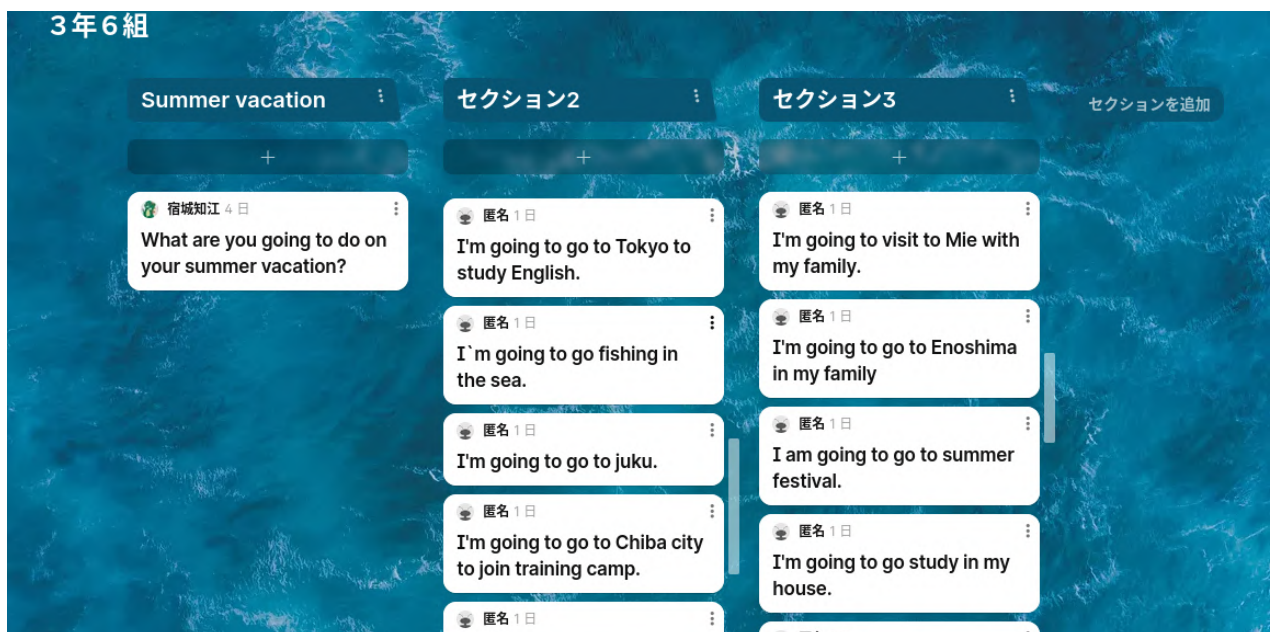
学年 3年生

実施時期 7月最初の授業

目的 復習として夏休みの予定をbe going to をつかって書く。

使用したツール Padlet

(Padletの画面)



成果と課題

- ・ Padletはフリースタイルの英作文を書かせたい時に有効なツールである。
- ・ 作文が苦手な生徒も辞書機能をつかって積極的に自己表現しようとする態度が見られた。

ウ 英作文② 夏休みに体験したことを書かせる

学年 2学年

実施時期 9月最初の授業

目的 過去形や不定詞の復習として

使用したツール Google スプレッドシート

(Google スプレッドシートの画面)

A	B	C	D
		夏休みに誰に会いましたか。	夏休みにどこへ行きましたか。過去形と不定詞を使って書いてみよう。
		I met Mr.Tanaka at Saizeria.	I went to Kyoto to visit Kinkakuji temple.
1		I met my friend at AEON	
2		I met my Notyann at AON.	I went to Disney sea to play.
3		I met my friends at AEON.	I went to Disney sea to play.
4		I met Mr.Maki at the juku.	I went to movie theater to noop.
5		I met Sasakwa at Eon.	I visited Yokohama to have fun.
6		I met Mr.Kato at the park.	I went to Hiroshima to prepare to move.
7		I met Mr. Abe at my home.	
8		I met Mr.Ishikawa at the movie theater.	I went to Ibaraki to practice soccer.
9			
10		I met Mr.Okawa at AEON	I went to Kyoto to see my grand parents.
11		I met Mr.Tsuyama at school.	I want to Osaka to eat takoyaki.
12			
13		I met Mr.Ogasawara at the school.	I went to school to science activity club.

- ・スプレッドシートはPadlet よりも、教師が意図的で形式に基づいた英文を書かせたい時に有効であることがわかった。
- ・生徒の文法の間違いがすぐに指摘できるので、机間巡視をしなくても画面で個々の進捗状況が確認できる。生徒がどのような間違いをするのか、画面を見て瞬時にわかるので机間巡視の際に的確な指示を出しやすい。自由作文ではなく、ある特定の文法を手順にのっとして書かせたい時にこのツールは有効である。
- ・2番、3番の生徒のようにplayの後に 修飾語句を付け足すとよいなどの指示ができた。
- ・間違いを直した後に発表するので生徒は自信を持って発表できる。
- ・フォントを統一しないと「I」と「l」の区別ができないので、フォントを指定して行う必要がある。

## 6. 研究の成果と課題

### (1) 仮説1

#### 《成果》

- ・情報端末を用いて学習する形態に生徒が慣れ、教科書と情報端末を併用して学習 することが習慣となった。特に教科書本文をアレンジした音読活動では、情報端末を使うことで、教師の日本語での説明や指示が短縮され、生徒は教科書に頼らずに音読しようと前向きに学習できた。

### 《課題》

- ・授業の中で10分間は書く活動にあてているにも関わらず、定期テストにおいて基礎的な単語を書くことができない点では課題が残る。書く力をつけるには、今後も端末以外の学習時間をしっかり取ることを継続していきたい。

### (2) 仮説2

#### 《成果》

- ・生徒が作業している画面を教師が手元の情報端末からも確認できるため、生徒1人1人の取り組みをリアルタイムで確認し、進捗が止まっている生徒にはどこでつまづいているのかを把握し、効率的に指導をすることができた。
- ・スプレッドシートやロイロノートを用いることで、クラスメイトが書いた意見などの英文をクラス全体で共有することが容易となった。その結果、多くの英文に触れる機会が増え、クラスメイトと考えを共有することができるようになった。

### 《課題》

- ・Projectの單元では、自分の発表で端末を使いながら英語を話すという形態に、どの学年も慣れることができた。学校内で学年が上がるごとにどのような力を段階的につけていけばよいのかという部分は、教科内で評価の基準をもっと詰めていく必要がある。

### (3) まとめとして

情報端末をTPOに応じてどのように使うことが学習者にとってベストなのかまだ模索中の段階である。情報端末で様々なソフトウェアやツールを用いる利点はあるものの、思わぬ操作ミスで授業の進捗が遅れてしまうこともあった。ICT支援員のアドバイスを得ながら、Do See Planのサイクルで授業のスキルアップをすることができた。

端末を使うことで生徒達は、今まで知らなかった単語に触れ表現の幅も広がった。情報端末を使いながらのプレゼンテーションもすっかり板についてきた。自分の紹介したいことを写真や絵を添付して発表できるので、生徒達の表現の幅も広がった。しかし、それで生徒達の英語力が鍛えられたのかというと、そうとは言い切れない。発表の段階においてさえも学習者は英語力ではなく暗記力に留まっている。主題設定でも述べたが、学習者は「正確性」に重きを置いており、

とっさのひとつ＝「即興性」を身につけるまでには至っていない。その部分を掘り起こすためには各学年ごとに会話の中での「とっさのひとつ」として、どのような語彙を身につければよいか、3年間の見通しをもち指導して行く必要がある。学年ごとの見通しをもち表現指導に当たることが今後の課題である。特にCAN-DOリストの3年生の学習到達目標が求める即興性の部分は他の項目の目標と比べてハードルが高く、ペア活動での「やりとり」の部分をもっと強化していかなければならないと感じている。そのためには、生徒が予想できるつまづきを予想し、支援できる言語環境を整えていきたい。また、日頃からトピックに対してWhat do you think of it?という投げかけを増やしていかなければ、自分の考えを示す部分が育っていないと感じた。文法の導入授業に比べて教科書本文の授業は、総じて「正確性」に重点を置きがちである。情報端末を使って、教科書という素材をアレンジする所まではできたが、今後は教科書本文のリテリングという段階まで視野に入れて、生徒が表現できる場面を授業の中に組み込んでいきたい。

指導者は学習者に対して「正確性」に重きを置きがちである。発表している段階で間違いを指摘されると学習者は落胆してしまう。生徒が文法で間違えていたとしても、場面・状況に応じて表現されていたならば大いに褒める視点をもちたい。そのためには、「指導と評価の一体化」についても教師側の意識を変えて行かなくてはならない。定期テストでたくさん書いた生徒の答案にふさわしい点数をつけられないもどかしさを感じている。評価が「正確性」だけの視点しかないため、3単元のSが落ちていたら、他の箇所は書けているにもかかわらず×というような評価になっていることが多い。生徒の表現力に相応な評価の仕方についてどうすれば妥当な評価となるのか教科内で統一した基準を今後検討していきたい。生徒に「あなたはこの部分を頑張ったのですね。」と言える評価を示すことが生徒の自信となり、即興性への素地を養うことにつながると感じている。

#### 《参考文献》

- ・「英語授業のタブレット活用」 瀧沢広人・渡部正実 学陽書房
- ・「英文法指導アイデアブック中学3年」 瀧沢広人 明治図書
- ・「英語教科書本文活用術！」 田尻悟朗著 教育出版